

中国は早期警戒機部隊を強化中か？

漢和防務評論 20160530 (抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

中国空軍は、現在の4機に加え、2機程度のIL-76輸送機を早期警戒機KJ-2000に改装中である可能性があります。

中国海軍の海洋進出には空からの掩護が不可欠ですが、建造中の空母が何時になったらできるのか？艦載機ははたして開発できるのか？全く予測できない現在では、当分大陸沿岸及び南シナ海珊瑚礁埋め立ての航空基地を使うしか対応手段はないと思われま

す。その際、航続距離が長く滞空時間の長い早期警戒機が多数必要となります。

中国空軍には、IL-76を改修したKJ-2000型早期警戒機のほか、Y-8輸送機を改修したKJ-500やKJ-200型早期警戒機がありますが、現在は技術的な障害があるようです。

KDR 香港平可夫特電：

種々の形跡から、西安航空機公司是、IL-76を2機程度、KJ-2000型戦略早期警戒機に改修する可能性が出てきた。中国空軍は、現在KJ-2000を4機運用している。空軍第2飛行学院では、新たに”早期警戒機管制員養成コース”を設立した。ここを早期警戒機のための教育訓練基地にするためである。このほか、元の”早期警戒機管制模擬訓練システム”をさらにグレードアップして、迫真性を高め、”KJ-2000模擬訓練室”を建設した。中国空軍はIL-76輸送機の数が少ないため、2006年以降IL-76をKJ-2000に改修することが出来なかった。戦略早期警戒機としてのKJ-2000は、高度5000乃至10000Mを飛行し、半径400KM以内で同時に60乃至100個の目標を追跡することが出来る。

2015年、中国はロシアから改修を終えた8機のIL-76を獲得した。そのほか5機の同型機が2016年に中国に交付される。

2012年、ロシアは中国に10機のIL-76MDを交付した。この機体は大修理の際、新しいエンジンに換装された。中国は、この機体の中から2機を選定し、KJ-2000に改修した可能性がある。2015年12月、西安航空機公司に改修後のIL-76が2機出現した。1機はすでにレーダーが取り付けられており、このうちの1機である可能性がある。当然、現役の4機のうちの1機で、西安で装備を換装し試験飛行中である可能性を完全に否定することはできない。

KJ-500及びパキスタン向けのKJ-200Pの中国版も継続生産中であり、したがって中国海空軍は、早期警戒機の生産を大幅に拡大していることが分かる。これらの機体は多くの技術的問題に直面しているようだ。世界各地の航空ショーで、中国の早

期警戒機の専門家が、イスラエルなどのメーカーに対して早期警戒機のレーダー使用状況をしきりと質問している。KJ-2000機は全て航空兵第26師団に属し無錫碩放飛行場に駐屯している。

もし新たなKJ-2000が2機加われば、中国の戦略早期警戒機は6機に増える。注意すべきことは、碩放飛行場には2015年までにKJ-2000用の格納庫が建設されていないことである。依然として4機分のままである。また碩放飛行場でKJ-500が頻繁に飛行しているのが発見された。このことから航空兵第26師団にKJ-500の配備が開始されたと見る事が出来る。今後、新たなKJ-2000はどこに配備されるのか？注意しなければならない。

2015年末、中国国産輸送機Y-20型が2機、西安の閻良飛行場で試験飛行を行っていた。一説によると、この機体はすでに5機生産されたとされるが、官側の消息筋からは確認できていない。Y-20はIL-76に比べて大きい。最大積載量はIL-76が40トンに対しY-20は66トン（推定値）である。現在Y-20を早期警戒機に改修している形跡は無い。このような大型輸送機をその他の作戦用プラトホームに改修するのは得策ではない。Y-20は依然として試験飛行中である。

以上